

政拳公の具足

複製を制作

延岡J.C、延岡市に寄贈

延岡青年会議所(J.C.)、ア会(有村誠会長)は9月10日、内藤家第16代で最後の岡市に寄贈した。昨年のCの卒業者でつくるシニア会の延岡藩主、政拳公の具足の写し(複製品)を延岡市に寄贈した。昨年の同J.C創立60周年記念で企画し、鹿児島県の業者に制作を依頼していた。制作費は300万円。



延岡J.Cとシニア会が寄贈した具足の写し



具足に添えて展示する太刀を手にする高橋理事長と読谷山市長

複製したのは「紫系素懸威二枚胴具足(むらさきいとすがけおとし)にまじりつゝ(まじりつゝ)市指定有形文化財」。かぶとの「鍬形(くわがた)」と呼ばれる角のような裝飾の中央に「下がり藤」の紋が「吹き返し」と呼ばれる部分には、内藤家第3代家長が豊臣秀吉から賜った鉄砲袋に由来する五七桐(ごしちぎり)の紋が入っている。

複製品は鉄、銅、アルミ、真ちゆう、革、人工うるしなどを用いて、材質からほぼ再現しており重さは30kgを超える。「現代の人が着用して當時を体感できるものにした」という延岡J.Cの要望を受けて、オリジナル(身長150~160cm程度)より大きめに製作した。また、太刀(模倣刀)を添えた。

高橋理事長は「これまで延岡J.Cを支えてくださった地域の方々の感謝の気持ちで企画した。これを使って、延岡の子どもたちが親しむを持って郷土の歴史や文化を学んでほしい」。読谷山市市長は「次世代に郷土の歴史を伝えられる大変貴重な品をいただいた」と感謝し「城下町延岡を体験してもらう機会として、最大点に活用させていただきたい」と話した。

現在建て替え中の内藤記念館が完成するまで、仮の同記念館となっている南町の市役所南別館内にケース入りで展示する。新内藤記念館では、来館者が触れられるようにする予定という。

延岡J.Cは昭和32年7月25日に発足。創立50周年には延岡の偉人、文化、歴史を詠み込んだ「延岡蓬萊(ほつらい)かるた」を作成した。その後毎年かるた大会を開き、郷土愛を育む取り組みをしている。60周年の昨年は延岡城下町ブランドの確立を目指す「延岡城下町プロジェクト」を打ち出した。

延岡J.Cは昭和32年7月25日に発足。創立50周年には延岡の偉人、文化、歴史を詠み込んだ「延岡蓬萊(ほつらい)かるた」を作成した。その後毎年かるた大会を開き、郷土愛を育む取り組みをしている。60周年の昨年は延岡城下町ブランドの確立を目指す「延岡城下町プロジェクト」を打ち出した。